

# 根来寺遺跡

## 現地説明会資料

平成24年2月11日 13:30~14:30

公益財団法人 和歌山県文化財センター  
和歌山市湊字新堤内坪571番1  
Tel.073-433-3843 Fax.073-425-4595

### 概要

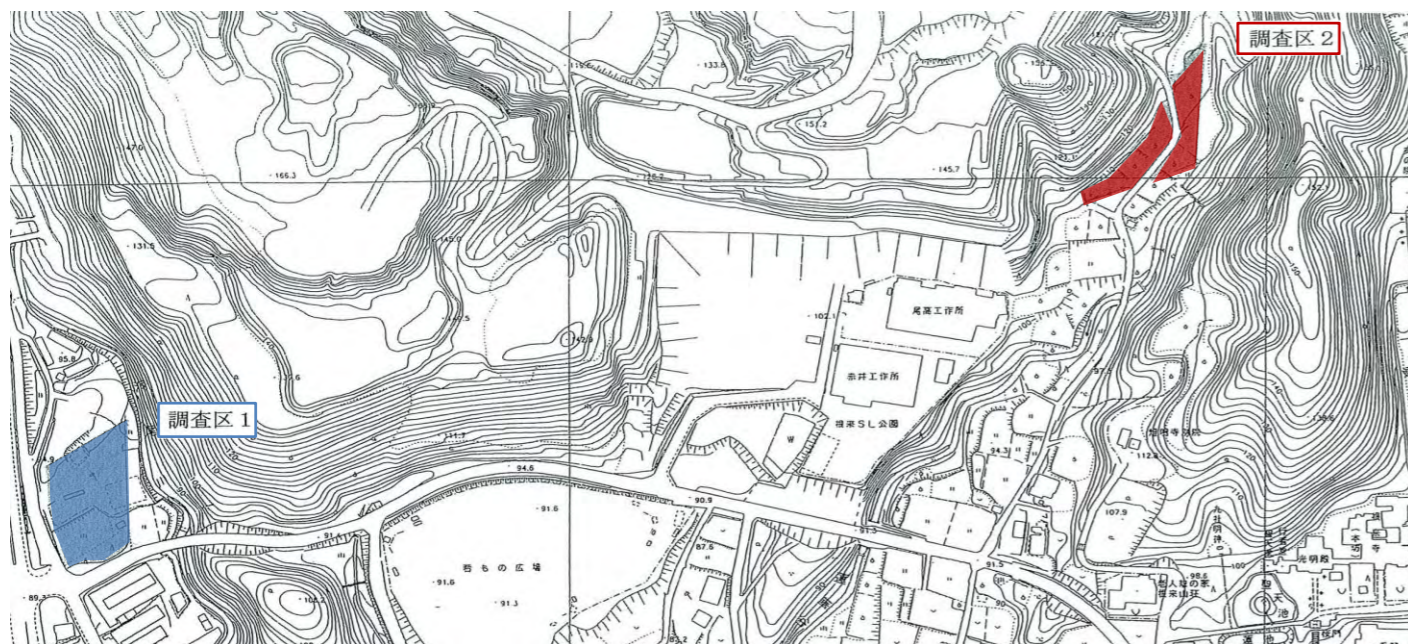
**根来寺遺跡**は現在の根来寺を中心として、和泉山脈南麓の北山と南側の前山を含む南北約2km、東西は東の菩提峠から西の住持池付近までの約3kmの範囲に及ぶ、中世の一大寺院跡です。

和歌山県文化財センターでは、京奈和自動車道の建設工事に伴い、国土交通省の委託を受け、平成23年7月から根来寺遺跡の発掘調査を実施しています。調査地は、県道泉佐野岩出線と広域農道の交差点北東側の調査区1と、市道桃坂線にまたがる調査区2の2箇所に分かれています。市道桃坂線では1984年から1987年に普通農道整備事業に伴い発掘調査が実施されており、数々の遺構・遺物が見つかっています。

**調査区1** 根来寺山内の周辺には中世の水田が棚田状に開発されていたことが判りました。これまでは山内の発掘調査が多く、今回の調査で初めて周辺部が生産地域であったことが明らかとなりました。また、古くは縄文時代の土器や石鏃が出土しており、近辺に縄文遺跡の存在が想定できるようになりました。

**調査区2** 西の山側から東の蓮華谷川の川岸にかけて、中世根来寺子院の敷地跡10段以上や、敷地の区画に沿う石垣・暗渠・石組溝、そして敷地群の間には南北方向の古道、その古道に沿って築かれた石垣、また敷地内には石組井戸、地下式倉庫の階段部分、埋甕遺構、瓦質土管の排水路など多様な遺構を検出しました。遺物も土師器(皿など)、陶磁器類(甕・壺・鉢など)、漆器、金属製品(鉄砲玉など)、瓦類(軒瓦・鬼瓦など)、石造物(五輪塔・宝篋印塔)など多量に出土しており、当時の根来寺子院の様子が良好に残されていることが判りました。

**まとめ** これまで市道桃坂線の調査成果から谷間の奥の方では遺構は少ないとされてきましたが、今回の調査区2の調査では遺構・遺物の残存状態が極めて良好であることが明らかとなり、調査区1の成果も含めて、中世根来寺遺跡の全体像を解明していく上で大きな成果を得たといえるでしょう。



調査位置図



全景



329溝



317暗渠



328・329溝



323・331石垣 344古道



356井戸